

研究・調査報告書

報告書番号	担当
387	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Linking drinking to injury - causal attribution of injury to alcohol intake among patients in a Swedish emergency room. 飲酒から外傷へ - スウェーデンの救急部の患者における外傷の要因としての飲酒	
執筆者 Nilsen P, Holmqvist M, Nordqvist C, Bendtsen P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Int J Inj Contr Saf Promot. 2007 Jun;14(2):93-102.	
キーワード 飲酒パターン、行動変容意欲、非致死性外傷、救急	
要 旨 目的： 外傷患者のうち、飲酒が外傷の要因であるという認識のある者における飲酒パターンと飲酒行動変更の意欲について解析した。 方法： スウェーデンの某病院救急部で 18 ヶ月間の断面調査を行った。18-70 歳の合計 1930 名の外傷患者を対象とした (応諾率 76.8%)。 結果： 飲酒を申告した者のうち 10%が、飲酒がその外傷の要因であるとの認識があった。週あたりの飲酒量および多量飲酒の頻度の多い者で、飲酒と外傷の関連を認識する者が多かった。飲酒に関する因子を変えようとする意欲は、飲酒と外傷の要因であると認識することと自分の飲酒習慣に対する不満および飲酒習慣を変更する欲求との関連と同様の傾向を示した。 結論： 飲酒と外傷との関連の認識の程度を測ることが可能であるということは、患者に彼らの外傷と飲酒との関連を考えさせ、その後の外傷を回避するために飲酒習慣を変更する意欲を持たせるのに有用なツールとなるであろう。	